

「こども保育一筋」 山本こども園園長 辻久美子

Kumiko
TSUJI



今回ご登場いただくのは辻久美子さん。
人生の大半以上をこども保育一筋に送ってこられた保育者、
昭和56年4月大阪狭山市に池尻保育園を設立されて以来、
平成30年4月再び池尻に池尻なな保育園を開設するまで
大阪狭山市に4園、富田林市に3園を設立、
その他付随する保育施設を数カ所開設され、
現在はその中の一つ山本こども園の園長先生です。



今や働くお母さんにとっては無くてはならない保育施設、保育園やこども園の実際を聞いて参ります。久美子さんがこの分野に進もうと決心をしたのはお母さんがこども好きで近所のこどもの世話をしたりする姿を見て育ち、自身もこどもが好きで歌や絵を描くのも、ダンスや走ったり泳いだり身体を動かすことも好き、手芸も得意で手先も器用なので、こどもと一緒に歌を歌ったり絵を描いたりする職業が天職だなと思い、大阪キリスト教短期大学に入学、初等教育科に進み、児童教育の道を選びます。保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、加えて料理も好きだったので調理師の資格も取りました。仕事は河内長野市の千代田台保育所を振り出しに三日市幼稚園と続きましたが、23歳で結婚。お相手は大手鉄工会社のエンジニア、辻光治氏。25歳の時に第1子を出産。当時狭山には保育所が少なく他市の保育所に預け子育てと仕事を両立し、無いものなら作るしかないの思いから、第2子出産を機に仕事を辞め、ご主人の光治さんと相談、社会福祉法人の立ち上げ申請をします。その名を光治さんの「光」と久美子さんの「久」の字を取り、「いく久しく光り輝くような子を……」

とめでたく「光久福祉会」と命名、早速事業を開始し、幼い二人のこどもが昼寝をしている合間を縫い設計士と打合せを重ね、池尻保育園を開設、法人の認可と同時に社会福祉法人光久福祉会にとって最初の施設となりました。28歳の時でした。それから光久福祉会は市内近郊各所に公益事業として保育園の事業を展開していきます

が、今から20年前、久美子さんはガンに冒されます。しかし病を克服した久美子さんは「一度死を見た身体」と心を据え、次々と保育所を設立。きりり保育園(平成18年)、梅の里保育園(平成18年)、みどり保育園(平成24年)、山本こども園(平成25年)、寺池台保育園(平成27年)、池尻なな保育園(平成30年)と保育園7園を開設、その他企画委託型保育サービス事業2件、放課後児童健全育成事業2件を開設、大阪狭山市

の児童教育・保育の場作りに全力を投入しました。
そこで辻久美子さんの保育の基
本方針はどこにあるのかを問うて
みました。

「それはまず人間としての共感性を育むことです。人と関わり触れ合うことで得る喜び、怒り、悲しさ、楽しさを経験することです。一日の保育の中で何が出来たかよりも心が動く(ワクワク、ドキドキ、ハラハラ、ハツしたり、ホツしたり等)ことをどのくらいたくさん経験したかを保育の評価としています。こどもたちのそれぞれの思いを受け止めて、認められているという安心感、信頼感をもとに、「自分はかけがえない大切な存在なんだ」という自己肯定感を育てたいと思います。」と。そして、「周りを思いやるやさしさ、愛の心、自らの感性を高める『美の心』、相手を尊敬しすべてに感謝できる『礼の心』、自然

やすべてと調和する『和の心』、この4つの保育理念を軸に、時代の流れの中、便利さや豊かさや引き替えに失ったものを保育を通じ少しでも補うことができれば……。」と穏やかに話してくれました。
取材のため訪れた山本こども園はちょうど年度末の生活発表会のリハーサル中でしたが、2歳児から5歳児まで各クラスの童話劇やダンス、楽器演奏など驚くばかりのまとまりを見せ、こども園保育の確かさを実感しました。園児とともに舞台上に見入る辻園長の顔は優しさそのものでした。



池尻保育園



きりり保育園



梅の里保育園



みどり保育園



山本こども園



寺池台保育園



池尻なな保育園